

平成29年度 第3回芦別市行政改革推進委員会
ワークショップ（グループ討議）協議結果

テーマ：公共施設のあり方について

① 市民文化系施設

- ・ ひぐらし研修センター
- ・ 黄金多目的研修センター
- ・ 啓南多目的研修センター
- ・ 上芦別生活館
- ・ 上芦別多目的研修センター
- ・ 常磐多目的研修センター
- ・ 新城多目的研修センター
- ・ 本町地区生活館
- ・ 野花南生活改善センター
- ・ 頼城多目的研修センター
- ・ 市民会館
- ・ 芸術文化交流館

各地区にあるコミュニティセンターは、防災施設の機能も兼ねていることから、地域にとって必要な施設であり、今後も維持管理していく必要がある。ただし、市の公共施設等総合管理計画のアクションプランでは、上芦別生活館が上芦別多目的研修センターに統合する予定となっていることから、この考え方を支持するとともに、ひぐらし研修センターについては、上芦別多目的研修センター等に統合が可能と考える。

文化系施設については、生涯学習の推進のうえで、市民会館は当然ながら必要性は高いものの、芸術文化交流館は、建築後50年以上経過しており、施設の存続が困難となった場合には、他の施設との統合も検討すべきである。

② 社会教育・学校教育系施設

- ・ 図書館
- ・ 星の降る里百年記念館
- ・ 芦別小学校
- ・ 上芦別小学校

- 芦別中学校
- 啓成中学校
- 学校給食センター

市内の学校は、小学校が芦別小学校及び上芦別小学校、中学校が芦別中学校及び啓成中学校の4校である。人口減少が著しい中においては、将来的には統廃合を検討しなければならないが、統合にあたっては、小学校同士及び中学校同士の統合、もしくは、地区ごとに小中学校を統合することが考えられる。

学校給食センターは、児童生徒の減少等に伴い、現在のセンター方式になっているが、将来的な学校統合の動向にあわせて、今後の給食センターのあり方を検討すべきである。

図書館は、建築後30年以上経過しており、今後、大きな改修が必要になることから、老朽化の著しい市総合庁舎を建て替える場合には、他市を参考として、庁舎との一体化も検討すべきである。

③ スポーツ施設

- 青年センター
- B&G 海洋センター
- 勤労者体育センター
- なまこ山総合運動公園
- あしべつ宿泊交流センター
- 国設芦別スキー場

青年センターは、武道館を取り壊した後の代替施設であること、B&G 海洋センターは油谷地区にあるものの利用度が高いこと、勤労者体育センターと宿泊交流センターについては、合宿等の利用度が高いこと、加えてなまこ山総合運動公園は、スポーツや合宿の拠点施設であることから、必要な施設と考える。

なお、これらの施設の管理運営などは、NPO 法人等に委託することも可能と思われるので検討願いたい。

④ レクリエーション施設

- 健民センターオートキャンプ場

- ・ 滝里湖オートキャンプ場
- ・ 陶芸センター
- ・ 道の駅
- ・ 健民センター（芦別温泉等）
- ・ カナディアンワールド公園

道の駅については、屋外トイレなど全体的に施設の老朽化が著しいが、近年は駐車場も整備しており、芦別市の顔としての役割を担っていることから、運営の見直しも含め、今後も魅力を高めていく必要がある。

滝里湖オートキャンプ場は、夏場の利用が非常に高く、大いに活用されているため、観光という観点からも必要な施設である。

健民センターには、スターライトホテル等の宿泊施設のほか、芦別温泉と星遊館の2つの温泉があり、日帰り専用の芦別温泉は、市民の利用が多いところであるが、2つの温泉を維持するには経費がかかるため、星遊館に一本化することを検討すべきである。

健民センターオートキャンプ場は、現状は利用者も少なく、また、公共性も低い施設であるが、将来的に国道452号が開通した時には、利用も増えることが期待されるため、最小限の経費で維持すべきと考える。

陶芸センターは、それほど利用者も多くないため、開館日を減らすなど、経費の削減も検討すべきである。しかしながら、温泉客が利用するという相乗効果を期待できるのであれば、PR等に努めていく必要がある。

カナディアンワールド公園については、借入金の返済や維持管理費に加えて、施設の老朽化に伴い、さらに修繕費が増加していくことが見込まれることから、存続すべき施設ではないと思われる。

⑤ 子育て支援・保健・福祉施設等

- ・ 子どもセンターつばさ
- ・ 総合福祉センター
- ・ 生きがいデイサービスセンター
- ・ 保健センター
- ・ 保健福祉施設すばる

- 市立芦別病院

子どもセンターつばさは、芦別市に1つしかない保育園であることから、多くの方々に利用されており、必要な施設と考える。

総合福祉センターは、各種団体の会議等に使用されているが、無料となっている施設利用に関しては、実費程度の徴収を検討すべきである。

保健センターは、健診等の実施以外はほとんど使われていないことから、代替場所を確保するなど、施設の廃止・処分を検討すべきである。

保健福祉施設すばるは、公共性は低いため、民間への売却も検討する必要がある。

市立芦別病院は、医師の確保など非常に困難な問題を抱えているため、今の段階では、継続的な議論が必要と考える。

⑥ 行政系・その他施設

- 総合庁舎
- 芦別消防団第二分団詰所（常磐）
- 芦別消防団第三分団詰所（新城）
- 芦別消防団第四分団詰所（野花南）
- 芦別消防団第五分団詰所（上芦別）
- 芦別消防団第六分団（分所）詰所（西芦別）
- 芦別消防団第六分団（本所）詰所（頼城）
- 斎場

消防団詰所は、芦別市民の生命、財産を守る大事な施設である。新しい消防庁舎も建設されたところであり、消防団詰所を含めて今後も消防体制の充実・強化に努めるべきである。

斎場については、65歳以上の高齢者の方々が増えていく中であって、近隣のまちの斎場を利用させてもらう方法もあるが、斎場までの往復時間が増加する、また、斎場の利用者が集中し混み合うことなど、高齢者にとっては、利便性も失われることとなるため、多少経費をかけてでも存続させるべき施設である。

市総合庁舎は、老朽化が著しいとともに、耐震化の対応もされていない状況にあるため、建て替えを前提に、専門的なプロ

ジェクトチームを作って議論していくことが必要である。